

わが故郷「^{りょうねいしょう}遼寧省・鞍山市(あんざんし)」

鞍山(あんざん)は中国の遼寧省中央部に位置し、面積は9,252平方キロメートルで、総人口は339,6万人で、また満族、回族などの少数民族が数十万人含まれている。中国の人口が百万を超えた大都市の一つである。鞍山市中心部から省都・瀋陽までの距離は89km、港湾都市・大連への距離は300kmあまり、温帯の大陸性気候に属し、夏は30℃を超え冬は氷点下20℃に達するときもある。一年の平均気温は8.5℃となっている。鞍山の名は、市街地南郊に二つの山が連なっており、その山と山の間が馬に載せる鞍に似ていることから名づけられた。鞍山は古くから鉄が産出されることが知られており、現在は中国でも最大の製鉄所があり、「鋼都(鉄の都)」の異名を持つ。



● 産業

鞍山市政府は2000年五カ年計画で、鞍山を鉄の街から現代的な工業都市および観光都市に転換することを決めた。さらに市のGDPを2005年までに100億元に拡大させ、老朽化した産業のハイテク化も推進するとした。さらに外資誘致にも積極的である。



● 鉱業

周囲では磁鉄鉱、褐鉄鉱、菱鉄鉱などの鉄鉱石のほか、滑石(タルク)、玉石(ヒスイ)などの鉱物資源を豊富に生産する。鉄鉱石の埋蔵量は100億トンと中国全土の4分の1を占めるほか、南部で採掘されるマグネサイト(マグネシウムの原料)は世界の埋蔵量の4分の1である。滑石は中国の三大産地に入るほか、岫岩では玉石が豊富に産出される。

● 製鉄業

1905年の日露戦争の後、日本は南満州鉄道(満鉄)を設立した。満鉄は鞍山付近で鉄の大鉱脈を発見し、撫順の石炭と鞍山の鉄を利用した製鉄を意図して、1918年に鉄道附属地(満鉄附属地)内に鞍山製鉄所を設立した。満州国時代の1933年には昭和製鋼所と改称された。中華人民共和国の時代に鞍山鋼鉄公司として再建され、新中国最初期的大型鉄鋼コンビナートとなった。



● 観光地

- ✧ 鞍山市は「東北の真珠」とも呼ばれる奇岩の山脈、千山を観光地として売り出そうとしている。



- ✧ 泥湯の温泉である湯崗子温泉は、唐代以来 1000 年の歴史を持ち、張作霖が別荘を開発し満州国時代には温泉地として栄えており、現在も温泉医療施設などのある観光地となっている。
- ✧ 市の東に玉仏苑という公園があり、その中には岫岩県で 1960 年に発見された高さ 7.95m、幅 6.88m、厚さ 4.10m、260.76 トンの世界最大のヒスイにブツダ像を彫った玉仏がある。



✧



勤勉で知恵のある情熱な鞍山人は近代的な意識、また、向上の意欲を持っており、精一杯に産業の実力を増強し、その競争力を強め、品質を向上させ、国際的な都市を創り上げようという目標を目指して、グローバル化に邁進しつつある。